

“着物を次世代に伝える” 使命を海外に広げるアンバサダー

今や“Kimono”という言葉は世界に通じる言葉として認識されるようになっていますが、日本の代表的な文化の一つである着物を世界に、そして次世代に広めようと尽力されている「きもの国際SDGs推進協会 東海支部」の主宰である土方一二男さんに今回はスポットを当てさせて頂きました。

着物の起源は奈良時代に遡り、筒状の布を体に巻き付ける形状から時を経て平安時代には洗練されたデザインや、鮮やかな染料の使用が始まり、中期、江戸時代へと着物は日本文化として受け継がれていく流れが構成されていきました。明治時代には洋服文化が入り、その後時代の流れと共に着物の着用は減少してきましたが、特別な行事や伝統行事などでは欠かせない存在として、日本の文化として一際存在感を残しています。

また、近年に至っては日本文化の継承として次世代に伝える事が盛んに行われるようになり、世界的に着物に関心が集まっているのは間違いありません。

今回、その活動の為に活躍されている、愛知県在住の土方一二男さんにインタビューをさせて頂きました。



—簡単な自己紹介をお願いします

きもの国際SDGs推進協会東海支部衣類商「誠」の代表をしています。岐阜県生まれですが、愛知県で社会人生活を経て、定年退職の後、今は妻と共に着物普及の活動に頑張っています。

—着物との関わりを持つきっかけとなったのは？

愛知県での就職先の会社が呉服店でした。その後、呉服店の会社拡張の為にスーパーマーケットの責任者に抜擢され、経営者の右腕として仕事に追われる毎日を送っていました。実際に着物を扱う事はこの頃はぐんと減りましたが、ある時期に経営者が社員研修の一環として海外研修の計画が持ち上がりました。目的は海外の大型スーパーマーケットの視察、自社の経営ヒントなどを求めニューヨーク、ロスアンゼルス、サンフランシスコと巡りました。今から約40年程前のことでしたが、私の使命をはっきりと認識させてくれた事が有りました。

研修中に一般のお宅を拝見する事になり、お宅の玄関から入った時、日本の着物がインテリアとして玄関の真正面の壁に掛けてありました。その時、改めて見る着物の美しさに私は大きなインパクトを覚えました。その光景は今でもはっきりと思い出す事が出来る程で、着物の素晴らしさを再認識し、海外にも着物の素晴らしさを発信していきたいという夢が芽生えました。

—40年前のモチベーションを今も持たれているのですか。それ以降の様子をもう少し詳しく教えてくださいませんか？

帰国後この時の事を折に触れ知人や、周りの人達に伝えながら共鳴してくれる有志を求めていました。その時に日系人文化を持つハワイが真っ先に浮かんだので、その目標に近づく為の地道な取り組みを始めました。知り合いは？協力者は？英語は？と、様々な問題は当然有りましたが、当たって砕けろ！というバイオニア精神でまずは行ってみようという計画を進めました。

—ハワイ進出のきっかけになった経緯は？

会社を辞めて2011年の4月に妻とハワイに来て可能性のある所に売り込みに行ったのですが、成果が上がりませんでした。ところが白木屋さんでタイミング良く社長とお話ができる事が叶いました。その席で、着物の販売価格について「安い！」という言葉がポロリと社長の口から溢れ、希望を感じました。



帰国後はメールなどでやりとりを繰り返しながら、その夏にハワイに再訪しました。商談を重ねた結果、ようやく着物イベントとして大々的に白木屋さんのスペースを頂けることになり、ハワイで第一歩を踏み出しました。

—初めてのイベントでの反響はいかがでしたか？

ハワイは元々日系人の馴染みもあり、皆さんから待ってましたとばかりの大反響を頂き、その後一年に数回開催しましたが、開催期間などの調整をしつつビジネスの採算まで持ってこれるようになりました。それと日系社会で既に浸透している茶道や合気道を始めとする繋がりや、着物を着る機会をより多く提供できた実感しています。

—一気に知名度が上がった事と思いますが、その頃のエピソードなどはありますか？

男性のファンの方達も増えてきた頃、特大サイズの男性が着物を探しにこられました。残念ながら特大サイズは無く残念な思いをされましたが、次のイベントで5Lを持ってきましたら、再来されたお客様は大喜びで、「私はやっと自分のサイズの着物を着る事が出来て夢のようだ！」と感激して頂きました。やはりお客様の喜ぶ顔をみる事以上の幸せはないですね。

—ハワイは米本土からの観光客も多いですが、そちらの反応は？

お陰様でアメリカ人のファンも増えて、日系メディアの協力も後押しとなって、知名度の広がりと共に、いざ本土へとつま先が向かうとしていた頃、コロナ禍に突入してしまいました。

—コロナ禍を乗り越えてハワイの地に戻られ、カラカウア通りを着物姿でPRされた素晴らしいハワイでの再出発の第一歩は、情熱のなせる技ではないでしょうか。

いつもこの話をするのですが、道端にコンタクトレ

ンズを落としてしまって絶望的になっていた時、太陽の光の屈折でキラッと光るものが見えて奇跡的にコンタクトレンズを見つけたような気持ちです。

私にとっては、こうしてハワイの目抜き通りで着物を着て皆さんに見て頂くという事が奇跡のような事で信じられないような気持ちです。

—熱意無しではなし得なかった事だと思います。販売以外の取り組みをご紹介頂けますか？

私達は日本の店舗では着物の売り買いを中心にビジネスを展開していますが、ご依頼がありましたら丁寧に一枚一枚拝見して買取させて頂いています。店名「誠」の気持ちで着物の取り扱いをしていますので、着付けなど販売以外の相談も次世代への橋渡しの一環の流れとして取り組んでいます。

—衣類商「誠」を、詳しく教えてくださいませんか。

店には質の良い豊富な量の着物がありますので、次世代へ継続というスローガンに共鳴して下さる方々も多く賑わっております。特に若い方達に人気のリメイクは、家内の提案などで、熱狂的なファンに楽しんで頂いています。3,000円から1万円の価格帯で提供していますので、少し手を入れるだけでオリジナルの普段着などを製作されて楽しんでいます。

—読者の皆様に着物文化を次世代に、具体的な願いなどございますか？

とにかくタンスに眠っている着物を出してあげて下さい。そして着てあげて下さい。リメイクで生き返らせる事も、リユースで他の人に引き取られて生き返る事もあります。素晴らしい魅力を持った着物にもう一度貴女の思いを寄せて下さい。

—伝統を守る為に革新的なアイデアを加えて継承という事ですね。ハワイの皆様には何か伝えたい事はありますか？

コロナの影響を乗り越えての再出発ですので、着物文化に興味と情熱をお持ちの企業様、個人の方問わず、興味や共感を持って頂ければ是非ご一報下さい。ハワイでの協力者賛同者を広く求めていますので宜しくお願いします。



夫婦片随で夢を現実にして行かれる熱意が伝わり、楽しくインタビューを終えさせて頂きました。

(取材・文 キノシタケイ)